

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

積み木で遊ぼう（街を作ろう）

<テーマの設定理由>

ブロックやレゴブロックなど立体物を作ることに興味を持っている。自分一人で作って楽しむことから、誰かと制作のテーマを共有して作ることに興味を示している。そこで、個々のテーマで制作する素材と空間と時間を提供することにより、他の子供達に働きかけたり働きかけられたりという遊びの広がりを促すことで、「こんなものを作りたい」というコミュニケーションが生まれる。誰もが入室可能な幼稚園ホールに、木製積み木を置くことで、子供達のつぶやきを拾って、より大きな主体的、創造的な遊びが展開できるように援助する。

2. 活動スケジュール

2025年4月～6月 積み木に触れる

- ・一人一人の経験を深めるために積み木で自由に遊ぶ
- ・立方体と直方体を使って、同じ高さ・広がりを持った立体を作る

2025年8月 教員園内研修

- ・高く積む、丈夫な土台を作る、バランスをとって少ない積み木で作るスキルを学ぶ

2025年10月～12月 テーマのある立体を作る

- ・橋のような構造を持つ立体、東京タワーのような立体、お城のような立体、窓のある構造を持つ立体を作る
- ・積み木を使って壁の模様をデザインする

2026年1月～3月

- ・作品展に向けて、年長組を中心に「お城」をどんな形でどのように作るかを相談する
- ・お城とそれを囲む街並みを作る

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭

○準備物、環境設定について

- ・waku-block 立方体 64×25、直方体 32×4、四角柱 64×5、長板 32×2
直角二等辺三角形柱 128×5、正三角形柱 64×2、円柱 64×4、半円柱 128
円柱内包体 128×1 等

- ・各保育室に直方体・立方体を持ち込みで遊べる場と時間を設定
- ・異学年の活動を設定して直方体・立方体・三角柱を持ち込みで遊べる場と時間を設定
- ・ホールで立体を平面で広げて並べる活動を設定（円柱・円柱内包体を加える）
- ・ホールで全てのブロックを使って、グループやクラスで協力して立体を作り上げる活動を設定

○子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

- ・積み木の手触り・ニオイなどを楽しんだ後、それぞれに立体を作る。お互いに別々のものを作りながら、「それいいね」「ここ危なそう」「もう一つのせてみたら」など、つぶやきに近いやり取りが多く行われていた。
- ・平面的な広がりのある立体物（壁や三角山など）を一人の子が作り始めると、次々に「入れて」「いいよ」「これもつなげてみよう」など、参加自由な雰囲気での活動が行われた。教員も「この形はどう作るの」「この積み木を使ってみたら」といった援助を行った。
- ・グループで何を作るかテーマを決める時には、徐々にテーマが絞られるように教員がファシリテートを行った。
- ・クラスで大きなリッタを一つ作り上げる相談を進めながら、試作していく活動に教員が積極的に関わった。積み上げる・広げる・崩れにくい構造を作るなど、子供たちのスキルアップとなるように援助した。
- ・一人が作った基本形をグループでパターンとして活かそうとする話し合いがあった。試行錯誤しながら出来上がったものを「それにしよう」「やってみよう」という主体的な発言が多くみられた。
- ・子供達が一人一人の作品を並べて、「お城」を囲む統一した作品群のように工夫した。一人一人の作品には、こだわりが見られ「半分にしても同じに見える（左右対称）」「横から見ると顔に見える」など、その子なりの工夫点が説明されていた。
- ・連続した活動日を設定しても、その時に作った立体を残しておくことよりも、別の立体に取り掛かることが多く見られた。「もっとこの形があれば、こうできる」という発言があると、周りの子供は「そうだ」と前向きな反応を示していた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子供自身にも「失敗」という感覚はなく、作っては壊すことの繰り返しをする中で、「これは良い」という作品作りができる。
- ・「先生いいですか？」という問いがとても少なく、相対的な比較ではなく個々の取り組みの満足度に関わる呟き（ここがうまくいった・それはいいなあ等）が多くあった。
- ・友達の様子を見て、自分の作品作りに取り入れたり、友達にアドバイスしたりというやり取りが多く見られた。
- ・教員からのアドバイスも、自分で手を動かして実際にやって確かめて納得していく行動が多くみられた。
- ・「先生、こうしたいのだけど」「～さん、こうするにはどうしたら良いか」という問いが自然に交わされていた。
- ・主体的な活動が行われる要件として、手を動かす・何度でもできる・自由な発言がある・工夫を見合うことができる・時間がたっぷりある・色々な子供たちが参加できる・次への意欲が生まれる環境設定の重要性を再認識した。